

【編集】
熊本大学 法学部
GP事業推進局

【事業推進責任者】
法学部教授 伊藤洋典

【連絡先】
〒860-8555
熊本市黒髪2丁目40-1
熊本大学法学部 GP
096-342-2315
c-sato@jimu.
kumamoto-u.ac.jp

～平成22年度 質の高い大学教育推進プログラム～
学生主導型ゼミによる地域活性化人材の育成

活動報告

西南学院大学

事前合宿(H22.9.19～9.21)



私たち田村ゼミ生は9月19日～21日に2泊3日で熊本へ事前合宿に行った。この合宿の目的は、川辺川ダム問題を理解する上で重要な方々にお会いしてお話を聞くことだった。

1日目は八代市で球磨川を取り戻す活動をしている、つる詳子さんにお会いし、2日目は五木村の水没予定地に今も住んでいる尾方さん夫妻や役場の地域振興課の方にお会いした。

その後、五木村の散策や、資料館を見学した。最終日は漁民の方と、元漁協組合の総代を務めていらっしゃる方のお話を聞くことができ、3日間を通してとても内容の濃いものとなった。現地に赴き、地元の人々とお話することで、資料や本では見えてこないものを直接肌で感じて理解することができたと思う。



【写真】「五木村ファンクラブ」会員の寺嶋悠さんとともに熊本へ(上)
地元住民にお話をうかがう(右)

琉球大学学生との交流

9月5日～17日の期間、琉球大の学生2名が朝日新聞西部本社のインターンおよび、学生との交流のために来福した。2人は西南学院大学の合宿所とゼミ生の自宅に宿泊した。合宿所では、ゼミ生が交代で数人ずつ一緒に宿泊し、交流を深めた。また、合宿には西南大のほか、九州大、福岡大の学生も参加した。インターンが終わる時間に駅まで2人を迎えに行き、合宿所で沖縄の基地問題や沖縄での大学生活などの話をした。インターンが休みの日は、2人が希望していた北九州に観光に行き、小倉城などを見学した。同年代ということもあり、色々な話をして、とても仲良くなることができた。よい出会いとなったので、今後も是非交流をしていきたい。

沖縄ナイト～沖縄問題や現代の若者問題をオールナイトで語り合う～

9月17日の夜、天神Early Believers (アーリービリーバーズ)にて、沖縄に関する上映会と議論をおこなった。第一部では水俣病や原発問題、米軍基地問題を映像や書籍を通して追及している西山正啓監督をお招きし、ご自身の作品上映と講演をしていただいた。また西山監督が特別講義を行っている福岡教育大学の学生の沖縄ワークキャンプの話をしていただいた。第二部では『SRサイタマノラッパー』で主役(MC IKKU)を演じた駒木根隆介さんに登場していただき、いわゆる田舎の若者が抱えている就職やある種の閉鎖的空間にある問題についてお話しをしていただいた。全体のプログラム終了後は沖縄に関わりのある音楽を流しつつ、学生や一般参加者による懇親会を行い、一晩中熱い議論を交わした。

今後の予定

現在、私たちは12月3日～5日に行われる五大学合同ゼミ合宿に向け、雇用について、「漁協」と「土木・建築」の2つの班に分かれ、活動している(毎週火曜3限・5限)。今後は、漁獲高や町役場の産業別人口の推移等のデータを調べ、川辺川ダム建設が実質的中止になってから、雇用にどのような影響を与えているのか把握していきたいと考えている。

11月7日～9日 日韓交流合宿(長崎軍艦島見学)
11月12日～13日 大学祭参加(ビッグイシューの校内販売をサポート)

熊本大学

熊本大学は9月22日～24日に相良村の茶湯里にて事前合宿を行いました。
学習課題である「住民活動と住民の声」を調べるため、人吉市、相良村、五木村の3つのグループに分かれ、アンケート調査を中心にフィールドワークを行いました。

フィールドワーク(五木村、相良村、人吉市)



↑ 五木村での聞き取り調査の様子

五木村では、頭地代替地区と宮園地区に分かれて住民に聞き取り調査を行い、五木村村長の和田拓也氏からお話を伺った。
頭地代替地区は、水没予定地からの移転の方々が多くあり、ダム問題に関して、真剣に考えておられるようだった。しかし、ダムに関する利害関係が複雑で、アンケート調査を断られる世帯も多かった。

宮園地区では、非水没地区ということもあり、ダムへの関心が薄い印象だった。今後の五木村に求めることは、「雇用の増加」「人口減少の歯止め」が多かった。

和田村長のお話から、五木村がダム推進を貫く歴史的背景を学んだ。五木村の振興策、基金などについても、お話を伺った。



↑ 和田村長との質疑応答

人吉市では、人吉市社会福祉協議会職員や商店街での住民への聞き取り調査を行い、人吉市長の田中信孝氏からお話を伺った。田中市長は「少しでも災害を減じていこうとする“減災”という考え方を浸透させることが必要である」ということ、また、「何よりもダム問題で被害を受けた五木村の再建が重要である」ということをおっしゃっていた。そのために特別措置法か新しい法律を制定する必要性を主張しておられた。市長のお話からは、ダム中止表明への強い思いを感じることができた。

しかし、その一方で、アンケート調査では断られることも多く、また答えていただいた方からも「よくわからない」という回答が多かった。人吉市の住民の方々には五木村や相良村よりダム問題に対して当事者意識は低いという印象を受けた。



↑ 住民座談会の様子

相良村では、相良村村長の徳田正臣氏からお話を伺い、四浦地区(水没予定地)で行われた住民座談会を見学した。

徳田村長は、「賛否に関わらずダムに振り回されてきた住民、地域すべてが被害者である。これからはダムに頼らずに地域づくりをしていべきだ。」として、地域づくりについては、行政ではなく住民中心の、また、相良村だけではなく人吉球磨地域という広い範囲で捉えられていた。

住民座談会では、活発な意見交換がなされ、住民の方々の強い要望や不満を直に聞くことができた。



↑ 徳田村長との質疑応答

熊日新聞記者、山口和也氏の講演



熊本日日新聞記者である山口和也氏から、川辺川ダムに関する講演をしていただいた。

過去から続く川辺川ダムの問題から、現在に残る課題まで、幅広く話していただいた。談合への潜入取材や、蒲島知事へのインタビューなど、多くの記事を書いてこられた方で、興味深いお話を聞くことができた。

これからの課題として、五木村の生活再建、ダムによらない治水、利水をどうするかということがある、とお話された。これらのことを踏まえながら、これからの調査を進めていきたい。

まとめ

今回、五木村、相良村、人吉市でのフィールドワークを通じて、多くの貴重な情報を得ることができた。

五木村の中でさえ、水没地と非水没地で、ダムに関する関心の違いが大きかった。人吉市においては、五木村に対して何かできないかと模索しているようだったが、具体策には至っていない。すべてが、これからという印象だった。

九州大学

第1回事前合宿(H22.8.9~8.11)

8月9日から11日にかけて、福岡県築上町にて合宿をおこなった。この合宿では、熊本日日新聞取材班の『「脱ダム」のゆくえ 川辺川ダムは問う』(角川学芸出版 2010)を主要テキストとした



議論により、川辺川ダム「問題」に関する基礎知識を共有し、また、近隣の砂防ダムを見学した。

さらに、合同ゼミでの報告の仕方や、報告を行うための九州地方整備局、九州農政局への聞き取り調査の方法について話し合い、合同ゼミの準備が本格的にスタートした合宿となった。



第2回事前合宿～川辺川ダム合宿～(H22.9.26~9.28)

9月26日から28日にかけての二泊三日で熊本県の五木村と人吉市にて事前合宿を行った。

一日目は、川辺川ダムを見学し、その後五木村役場で五木村長の和田拓也さんのお話を伺った。

二日目は人吉市を訪れ、人吉市長の田中信孝さん、熊本日日新聞の本田記者のお話を伺い、夜には「清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域市民の会」の定例会に参加させていただいた。

三日目は、八代市の河川事務所、熊本市の農政局に行き、河川事務所では球磨川の治水の在り方や、ダムの機能などについてのお話を、そして農政局の方々からはダムによらない新たな農業利水計画についてのお話を伺うことができた。

この三日間の合宿では本当に様々な立場の方々からお話を聞くことができ、川辺川流域が抱えている問題は単純な図式では表わすことができない問題なのだと感じた。そこで生きる人々の生の声を聞くという経験は、このような問題が我々にとっても他人事ではないのだと強く実感させてくれた。今後もこの合宿を踏まえ、五大学合同ゼミに向けて準備を進めていきたいと思う。



鹿児島大学

事前合宿(H22.7.19~7.20)

鹿児島大学では、7月19日と20日の両日、事前合宿として本年度の5大学合同ゼミのテーマとなった川辺川ダムの見学を行った。

1日目は、鹿児島を出発して川辺川ダムに直行。ダム建設予定地の周辺整備事業を中心に見学した。あいにくの悪天候のため、十分な現地視察を行うことはできなかったが、参加した学生たちは一様にきれいに整備された周辺地域の様子に驚きの表情だった。

現地視察後、人吉市内のホテルに移動し、会議室にて高橋ユリカ氏の『川辺川ダムはいらない』を題材にして討論を行った。本書については、前期の通常のゼミで輪読を開始したが、最後まで終えることができなかったため、事前合宿で取り上げることとした。高橋氏の本を通読したことにより、学生たちは川辺川ダム問題をめぐる状況について理解を深めることができたと思われる。

その後、5大学合同ゼミに向けて、どのような事前の準備を行うべきか、また、ゼミの運営はどのようにしたらよいのかなど、今後の活動方針について意見交換を行い1日目を終えた。

2日目は、ダム問題が一応終息に向かっているなかでの今後の地域振興の在り方を学習するために、観光施設のひとつである球泉洞を見学した。球泉洞だけでなく物産館なども見学し、地域経済の一端に触れることができたと思われる。

事前合宿終了後まもなく夏休みに入ったが、夏休み中に熊本大学で行われた打合せ会議での決定を踏まえ、後期に入ってから主として住民討論集会についての資料収集と意見交換を行って。



五大学合同ゼミ合宿 第三回 打ち合わせ会議

決定事項

《検討事項》

- ①3日間のスケジュール
- ②全体討論のテーマ
- ③フィールドワーク先

10月25日に、熊本大学において、5大学の学生代表と先生方による打ち合わせ会議を行った。左の3点を中心に検討し、以下の結果となった。



①3日間のスケジュール

1日目		2日目		3日目	
13:00	集合、挨拶	18:00	朝食	17:30	朝食
13:30	事前学習分発表 十川辺川ダムの教訓について、話し合い	10:00	ゲスト講演(五木村村長 和田拓也氏、参議院議員 松野信夫氏)	18:30	
16:00	各部屋に、荷物運び込み	13:00	フィールドワーク	19:00	各班の発表(10分ずつ)
16:30	フィールドワーク班内での自己紹介(できればレク)	～	(昼食は各自)	10:00	全体討論
18:00	夕食	17:00		12:30	休憩(軽食)
19:00	宴会	18:00	夕食	13:00	潮谷さん講評・講演
21:30	片付け	19:30	各班でまとめなど	14:00	先生方からの講評、来年への引き継ぎ
				14:30	解散

②全体討論のテーマ

<川辺川流域の地域活性化について>

五木村の地域活性化を考えると、現在の活性化策でいいのか、従来型の活性化ではない、新たな活性化を考えるべきではないか、他の自治体との関係を考えるべきではないか、という問題提起。

→五木村に焦点を当てつつも、流域自治体を含んだ議論をする。その上で、五木村、相良村、人吉市は今後、どのような関係を構築していけばいいのかを話し合い、漠然としたものでもいいので、結論を出す(「地域活性化とは何か」などを含んだ話し合いもする)。最後は、五木村の未来像の議論に収束する。

<入り口の議論として>

- ・これから川辺川ダムを建設することに賛成か、反対か。
 - ・現在の五木村振興計画(ふるさと五木村づくり計画)に賛成か、反対か。
- 1日目、2日目の様子を見て、どちらが適切かを決める。
この他に、良い導入の議論があれば、そちらも検討したい。

③フィールドワーク先

五木村	A(役場、観光協会)、B(役場、商工会)
相良村	C(役場、商工会)
人吉市	D(役場、商工会)

国	E(川辺川砂防事務所)
県	F(球磨地域振興局)

5大学ゼミに向けて

ゼミ合宿本番まで、1か月を切りました。全体討論のテーマが決まりましたので、これからの事前学習は、テーマを意識して、行っていただくと、合宿がよりよいものになると思います。特に、フィールドワークによる調査では、全体討論の材料となるようなお話を、各団体から引き出してきていただきたいと思います。各大学で、質問事項の検討などをよろしくお願ひします。

みなさん、何かとお忙しい時期かと思いますが、合同ゼミを成功させるためにも、頑張ってください。